

2024年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
31210	日本語文法と読解 Japanese Grammar & Reading	河合龍二		基礎	1	選択	1・2後期

科目の概要

現代日本語文法・敬語を学修し、実践問題に取り組むことによって、現代日本語の基礎を身に付ける。また、評論・小説・随想・詩歌・新聞記事などの様々な文章を読み、日本語の味わいや情感、論理に触れ、感性や読解力を高める。(ディプロマ・ポリシー②③④⑤)

学修内容	到達目標
① 日本語の文章・文・文節・品詞の定義を理解する。 ② 8種類の自立語と2種類の付属語を習得する。 ③ 3種類(5種類)の敬語を分類し、表現を身に付ける。 ④ 評論・小説・随想・詩歌等の読解力を身に付ける。 ⑤ 新聞記事などの読解力を身に付ける。	① 文を文節、さらに品詞に分け、品詞名を理解できる。(ディプロマ・ポリシー②③) ② 品詞名・文法的意味の小テストで8割正解できる。(ディプロマ・ポリシー②③) ③ 場面ごとの敬語の使い分けで8割正解できる。(ディプロマ・ポリシー②③) ④ 仲間と対話しつつ読解力を高めることができる(ディプロマ・ポリシー④⑤) ⑤ 新聞記事のポイントを指摘できる。(ディプロマ・ポリシー④⑤)

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
---------------------	---------------------------

前に踏み出す力	主体性	授業で取り組む文法・読解の演習などに、積極的に取り組むことができる。
	働きかけ力	
	実行力	小テストの予習・復習、授業での課題の取り組みを確実に進めることができる。
考え抜く力	課題発見力	文章や図表を読解し、課題が何であるかを発見し、確認・把握することができる。
	計画力	
	創造力	基本事項を土台にして、自ら工夫して応用課題の解決方法を考えることができる。また、エッセイや詩歌を創作できる。
チームで働く力	発信力	エッセイや詩歌を創作し、自らの作品や意図を他の者に分かりやすく伝えることができる。
	傾聴力	教員の講義の重点、他の学生の発表の要点を的確につかみ、箇条書きでポイントを記述することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：毎回、教員作成のプリントを用意する。
 参考文献：講義中に随時紹介する。

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連：なし
 資格との関連：なし

学修上の助言	受講生とのルール
毎回、さまざまな文章を用意するので、熟読し内容を理解するよう心がける。社会人として必要な日本語の知識を修得するため、適宜「小テスト」を実施するので真摯に取り組むこと。	さまざまな思考ツールを紹介する。読解のしかた、ものの見方・考え方を広げてほしい。また、語彙力の向上に努めること。配付プリント及び毎回の振り返りシートは、ポートフォリオとして各自保管しておくこと。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標		各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学 期 末 試 験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	50	①	✓	文法・漢字・語彙が理解できている。 誤字・脱字がなく、用語の使用が適切である。 各種文章の読解力があり、解答が簡潔で分かりやすい。 図表・資料・新聞記事から課題点を見つけることができる。 敬語の種類・適切な使用ができる。 文法・読解の学修の中に課題解決の要素を加え、pisa型学力を身に付けることができる。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
	平 常 評 価	小 テ ス ト		20	①	✓	授業の初めに実施する文法・漢字・語彙・敬語の小テストの得点を評価に加える。
					②	✓	
					③		
					④		
					⑤		
		レ ポ ー ト		20	①	✓	毎回の振り返りシートに、何を学び今の自分に何が足りないかを記述する。それを蓄積し、学修の調整することができる。
					②	✓	
					③	✓	
					④	✓	
					⑤	✓	
		成 果 発 表 （ プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン ・ 作 品 制 作 等）		0	①		
					②		
					③		
					④		
					⑤		
学 修 行 動	社 会 人 基 礎 力 （ 学 修 態 度）		10	①	✓	（主体性）文法・読解の演習などに、積極的に取り組むことができる。 （実行力）目標への取り組みを確実に進めていくことができる。 （課題発見力）文章・図表から課題を発見し、解決策を考察することができる。 （創造力）詩歌やエッセイを創作できる。 （発信力）聞き手に分かりやすく、自らの考えを発表できる。 （傾聴力）他の者の話を聞き、課題を考察し、理解を深めることができる。 （規律性）無断遅刻、無断欠席など学修意欲欠如をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。	
				②	✓		
				③	✓		
				④	✓		
				⑤	✓		
総合評価割合		100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>Sは、10品詞の定義が正確に言え、単語の種類、活用について誤りがほとんどない。敬語の種類・語彙をほぼマスターできている。漢字・語彙の誤りはなく、どの種類の文章でも正確に読解できる。読解演習など積極的に活動し、他者の話を聞き、しっかり考えた意見を表明できる。文法・読解など9割以上理解している。試験・小テストの正解率が9割以上。</p> <p>Aは、Sとほぼ同様であるが、文法・読解など8割以上。試験・小テストの正解率が8割以上。</p>	<p>Bは、10品詞の定義がほぼ正確に言え、単語の種類、活用について誤りが少ない。敬語の種類・語彙をだいたい理解できている。漢字・語彙の誤りは数か所。どの文章も概ね正確に読解できる。自分の意見を表明できる。文法・読解など7割以上理解。試験・小テストの正解率が7割以上。</p> <p>Cは、Bとほぼ同様であるが、文法・読解など6割以上。試験・小テストの正解率が6割以上。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	オリエンテーション 日本語文法Ⅰ 文章・文・文節・品詞を区別し、品詞に10品詞あることを学ぶ。	シラバス並びに社会人基礎力を育む学泉ノートを使い、授業のねらいと小テスト、予習復習について説明する。PCを使って調べ学習をする。1年生は、調べた語句を「オリジナル辞書」としてPCフォルダに蓄積していく。(以下同じ)	文章・文・文節・品詞を判別し、品詞の区別・定義を6割以上説明することができる。	(復習) 授業で学習した文節・品詞を配付プリントにより復習する。	90	実行力 傾聴力 規律性
2	日本語文法Ⅱ 自立語で活用のあるもの(動詞・形容詞・形容動詞)の活用の種類を学ぶ。文法と並行して、新聞や小説等さまざまな文章を、思考ツールを用いて読解する。(以下同じ)	10品詞の区別・名称・定義の小テストを授業開始時に行う。自立語で活用のあるもの(動詞・形容詞・形容動詞)の活用の種類と活用の仕方を学修する。	自立語で活用のあるもの(動詞・形容詞・形容動詞)を6割以上判別し、説明することができる。	(予習) 小テストの範囲である「10の品詞」の区別・名称・定義を言えるようにする。 (復習) 動詞・形容詞・形容動詞の種類と活用を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	日本語文法Ⅲ 自立語で活用のないもの(名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞)を学ぶ。読解力向上トレーニングを毎回試行する。(以下同じ)	動詞・形容詞・形容動詞の小テストを授業開始時に行う。自立語で活用のないもの(名詞、副詞、連体詞、接続詞：順接・逆接など、感動詞)の定義の違いを学修する。	自立語で活用のないもの(名詞、副詞：陳述の副詞など、連体詞、接続詞：順接・逆接など、感動詞)を6割以上判別し、説明することができる。	(予習) 小テストの範囲である「動詞・形容詞・形容動詞の種類と活用」を区別できるようにする。 (復習) 名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の区別を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	日本語文法Ⅳ 付属語で活用のあるもの(助動詞：受身・尊敬・自発・可能・使役・打消・推量・意志)を学ぶ。	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞の小テストを授業開始時に行う。付属語で活用のある助動詞の違いを学修する。	付属語で活用のあるもの(助動詞：受身・尊敬・自発・可能・使役・打消・推量・意志)を6割以上判別し、説明することができる。	(予習) 小テストの範囲である「名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞」を区別できるようにする。 (復習) 助動詞(受身・尊敬・自発・可能・使役・打消・推量・意志)の意味と活用の仕方を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
5	日本語文法Ⅴ 付属語で活用のあるもの(助動詞：過去・完了・断定・伝聞・比況など)を学ぶ。	付属語で活用のある助動詞の違いを双方向による演習と発表により学修する。	付属語で活用のあるもの(助動詞：過去・完了・断定・伝聞・比況など)を6割以上判別し、説明することができる。	(予習) 小テストの範囲「助動詞」を区別できるようにする。 (復習) 各助動詞(過去・完了・断定・伝聞・比況などの意味と活用の仕方を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
6	日本語文法Ⅵ 付属語で活用のないもの(助詞：格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞)を学ぶ。	助動詞の小テストを授業開始時に行う。付属語で活用のない助詞(格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞)の違いを学修する。	付属語で活用のない助詞(格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞)を6割以上判別し、説明することができる。	(予習) 小テストの範囲「助動詞」を区別できるようにする。 (復習) 4種類の助詞(格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞)の分類ができ、意味の違いを確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
7	敬語概論と演習Ⅰ 尊敬語の定義(相手側・第三者を立てて述べることば)、謙譲語Ⅰの定義(自分側から相手側・第三者を立てて述べることば)、謙譲語Ⅱの定義(丁重に述べることば)、丁寧語の定義(丁寧に述べることば)、美化語の定義(美化して述べることば)を学ぶ。	4種類の助詞の小テストを授業開始時に行う。尊敬語・謙譲語Ⅰ・謙譲語Ⅱ・丁寧語・美化語の違いを学修する。	尊敬語・謙譲語・丁寧語の定義が理解でき、通常語を、言い換えによる敬語、添加による敬語に置き換えることができる。	(予習) 小テストの範囲である4種類の助詞を区別できるようにする。 (復習) 3種類5分類の敬語の定義を復習し、確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
8	敬語概論と演習Ⅱ 訪問客や上司への応対など、具体的な場面での敬語使用法を学ぶ。この学習の中で、課題解決型の演習を行い、pisa型学力を習得する。	訪問客や上司への応対など、具体的な場面での敬語使用法をロールプレイングにより学修する。	相手が訪問客であったり、上司であったり、状況に合わせて、尊敬語・謙譲語・丁寧語の敬語の使い分けができる。	(予習) 敬語の種類についてPCを用いて調べ学習をしてくる。 (復習) 具体的な場面での各種敬語の使用の区別を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	敬語概論と演習Ⅲ 訪問客や上司への対応など、具体的な場面での敬語使用法をグループワークにより学ぶ。この学習の中で、課題解決型の演習を行い、pisa型学力を習得する。	敬語の小テストを授業開始時に行う。訪問客や上司への対応など、具体的な場面での敬語使用法をロールプレイングにより学修する。	相手が訪問客であったり、上司であったり、状況に合わせて、尊敬語・謙譲語・丁寧語の敬語の使い分けができる。	(予習) 小テストの範囲である「具体的場面での各種敬語」を区別できるようにする。 (復習) 具体的場面での各種敬語の使用の区別を確認する。	90	主体性 実行力 傾聴力 規律性
10	文章読解Ⅰ 小中学校及び高校の教科書教材(文学的文章)を用いて、新たなアプローチの仕方を身に付ける。場に応じた敬語表現のロールプレイングを行う。	「物語論」の手法を生かして、思考ツールを用い、作品の構造等を可視化する。語り手と聞き手の存在を意識した読解を進める。演習とグループワークにより学修する。	場面ごとの登場人物の感情の動きなど、小説文の内容を要約し、作者の意図等をおおむね説明することができる。紙上対話(お手紙まわし)で即座の言語化、読解力と表現力を磨くことができる。	(予習) 事前配付プリントを熟読しておく。 (復習) 新たなものの見方・考え方が身に付いたかを、振り返りシートを用いて確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11	文章読解Ⅱ 小中学校及び高校の教科書教材(論理的文章)を用いて、新たなアプローチの仕方を身に付ける。この学習の中で、課題解決型の演習とグループワークを行い、pisa型学力を習得する。	クリティカル・シンキングを意識して、思考ツールを用い、根拠と結論の相関を可視化する。また、論の進め方等を参考に、自らの意見を醸成し発表する。演習とグループワークにより学修する。	筆者の主張を把握し、意図等をおおむね説明することができる。紙上対話(お手紙まわし)で即座の言語化、読解力と表現力を磨くことができる。	(予習) 紙上対話(お手紙まわし)の独自テーマを決めておく。 (復習) 新たなものの見方・考え方が身に付いたかを、振り返りシートを用いて確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12	文章読解Ⅲ 小中学校及び高校の教科書教材(詩歌)を鑑賞し、新たなアプローチの仕方を身に付ける。この学習の中で、課題解決型の演習を行い、pisa型学力を習得する。	音の響きや美しさを知り、思考ツールを用い、作品に描かれている心象世界を可視化する。また、使われている修辞技法等を参考に、創作し発表する。演習とグループワークにより学修する。	表現されている詩歌の心象世界について鑑賞し、その趣きを生かした自らの作品を発表できる。紙上対話(お手紙まわし)で即座の言語化、読解力と表現力を磨くことができる。	(予習) 紙上対話(お手紙まわし)の独自テーマを決めておく。 (復習) 新たなものの見方・考え方が身に付いたかを、振り返りシートを用いて確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13	創作Ⅰ 河合自作のエッセイを複数読み、比較検討を加え、自らの考えを反映した新たな物語を生み出す。この学習の中で、課題解決型の演習を行い、pisa型学力を習得する。	「比べ読み」の手法を生かして、思考ツールを用い、関連の構造等を可視化する。それら間にあるものを追究し、物語を創作する。演習とグループワークにより学修する。	既習のエッセイと比較することでメタ認知を発揮できる。その過程での気付きを自らの作品に反映し、発表できる。紙上対話(お手紙まわし)で即座の言語化、読解力と表現力を磨くことができる。	(予習) 紙上対話(お手紙まわし)の独自テーマを決めておく。 (復習) 新たなものの見方・考え方が身に付いたかを、振り返りシートを用いて確認する。	90	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14	創作Ⅱ 河合自作のエッセイと新聞を読み、比較検討を加え、自らの考えを反映した新たな物語を生み出す。この学習の中で、課題解決型の演習を行い、pisa型学力を習得する。	「比べ読み」の手法を生かして、思考ツールを用い、関連の構造等を可視化する。エッセイを社会問題と結び付け、物語を創作する。演習とグループワークにより学修する。	新聞等で報道される社会問題と比較することでメタ認知を発揮できる。その過程での気付きを自らの作品に反映し、発表できる。紙上対話(お手紙まわし)で即座の言語化、読解力と表現力を磨くことができる。	(予習) 紙上対話(お手紙まわし)の独自テーマを決めておく。 (復習) 新たなものの見方・考え方が身に付いたかを、振り返りシートを用いて確認する。	90	実行力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	オンデマンド 15週の総復習をし、期末試験対策のポイントを指示する。	視聴とレポート提出 レポートの内容は、詩歌あるいはエッセイの創作等、期末試験に直結する内容とする。	提出期限を守り、レポート提出できる。	(復習) 期末試験の事前学習をする。	90	主体性 実行力 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力